若武者躍動、夢は続く！
三木市Ａ堂々の３位
第６１回東播地区親善剣道大会

相次ぐ台風上陸、また記録的な豪雨で広島市をはじめ、福知山市、丹波市などで大規模土砂災害等が発生するなど例年になく大荒れの８月であった。24日も朝から曇天、平成25年度より、加古郡の参加を得たために大会名を「東播八市」から「東播地区」と変更している「第61回東播地区親善剣道大会」が高砂市総合体育館アリーナにおいて開催された。東播８市１郡からの精鋭剣士、審判・役員延べ２００余名が結集。三木市剣道連盟からは団体戦２チーム、男女各個人戦に４選手を送り込んだ。

宣誓する選手（三木市高砂高八木東高校教諭）

合同稽古の後、午前10時、予定通り開会式が行われ、昨年度新調された優勝旗が明石市Ａから返還された。主催者濱中洋大会会長、登高砂市長あいさつから始まり、定番の開会行事の最後には、地元高砂市より、三木東高校教諭剣道部顧問八木啓介選手が堂々と選手宣誓を行った。

続いて打太刀剣道教士７段松浦征伸氏、仕太刀錬士７段榊原一磨氏が気迫のこもった日本剣道形の演武を行い喝采を浴びた。

あっぱれ！稲岡、加村両選手がともにベスト16入り
～個人戦男子の部～

男子の個人戦では、第１試合場第１試合に三木市代表稲岡稔博選手が登場。本大会は、近年50歳を超えてなお試合に出場する選手は少なくなってきている。まず稲岡選手の58歳にもかかわらず出場した闘志に拍手を贈りたい。選手としても成長中で、１回戦は年齢差をものともせず得意の小手を２本取り、好調な滑り出しを見せた。一方、第２試合場に目をやれば、加村友多選手が強敵井上選手（小野市）相手に緒戦に臨んでいた。加村選手、動きよく序盤戦で見事な出小手を決める。相手があせって打ち急いでくる中、冷静さと積極性を失わない試合運びで粘りぬき、一本勝ちを収め、両者２回戦に進出した。稲岡選手は対飯原選手（小野市）と互角の勝負、延長でも決着がつかず判定に持ち込んだ。微妙な一戦だったが動きのよさと有効打突に近い技に勝る稲岡選手が辛勝した。加村選手は、対ジェフリー選手（西脇市）戦で面、小手の２本勝ちを収めた。３回戦では両者とも敗退したが、ともに自身初となるベスト16に入り満足な様子。気迫のこもった試合は、他の選手の士気を高めるに十分だった。

ベスト１６に入った加村選手（右）

ベスト16に入った稲岡選手（右）

残念ながら男子個人戦の吉見選手、女子の平井選手は、健闘及ばず１回戦で苦杯をなめた。

団体三木Ｂ、善戦及ばず

各市町が強豪をそろえ激突する団体戦。午後１時、三木市Ａ・Ｂ両チームはそれぞれ第１・第４試合場で予選リーグを戦った。

まず三木市Ｂチームは、高砂市Ａ、加古川市Ｂ、加古郡Ｂの４チーム総当りで、ラインナップは先鋒上野（３段）、次鋒粟田（３段）、中堅中谷（４段）、副将高尾（５段）、